

学校名	熊本県立南稜高等学校
-----	------------

## 平成 28 年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール 事業計画書

### I 委託事業の内容

#### 1. 研究開発課題名

地域を担う生命総合産業 (Total Life Industry) クリエーターの育成

#### 2. 研究の目的

地域の基幹産業である「農業」を食料生産の分野だけに留めず、教育・福祉・生活等あらゆる分野と融合した新総合産業分野を創造し、地域の創生へ寄与できる豊かな創造力と技術を持った人材を輩出する。また、都市部や諸外国の都市と農業文化交流を図ることでグローバルな視点を養うとともに、地域の風土・文化的資源や人的資源を活用しながら、日本文化遺産に認定された「球磨人吉地域」の伝統文化及び先人の技術や知恵の結晶を次世代に継承し、豊かな心の拠り所として地域を活性化できる実践力あるクリエイターを育成する。

目標としては、地域就業率 (平成 27 年度実績 32%) を年 10% 程度の向上を目指す。

#### ※ 生命総合産業

地域及び社会のニーズを取り入れ、基幹産業である農業を軸とした新たな産業分野を「生命総合産業」と表し、そのクリエイターを本校 S P H 事業で育成する。このクリエイター達が将来的な地域の活性化人材となつて、地域及び産業の維持と発展、活性化に寄与する。

#### 3. 実施期間

契約日から平成 29 年 3 月 15 日まで

#### 4. 当該年度における実施計画

これまで本校独自で行ってきた就農者育成プログラム「南稜就農塾」を一部改編し、地域産業のリーダー、もしくは、生命総合産業のクリエイターとなる人材を育成するモデルとして位置づけ、全学科から将来のリーダーと期待される生徒を募り、教育活動を行う。この活動や経験の中で人材育成の軸とするとともに、農業に関する見識を育む。また、各学科では、将来的に地域内の各産業分野で活躍する人材育成を図り、特に農業分野においては、G A P 教育の推進、持続的な発展と活性化及びグローバル化に寄与する人材育成を行う。

1 年目は「南稜就農塾」を活動の主軸として、各科リーダーとなる生徒の育成を図る。また、各科の取組みを並行して行い、2 年目の活動へつなげていく。最終年となる 3 年目は各科の取組みを充実・達成させて、その成果となる人材を地域内へ輩出する。また、進学者については、本校卒業・進学前に将来の目標と展望を明確化し、進学先の卒業後に地域内の各産業分野で活躍する人材となる自覚を持たせる。高校卒業後の就業者と進学者が地域内の各産業分野で連携・協働、

創造的活動を行うことで、農を軸とした新総合産業分野を構築し、地域を活性化できる実践力のあるクリエイター集団が地域内に生まれ、地域の産業維持・経済復興・雇用創出・安定した豊かな生活の確保・豊かな心を持つ次世代の姿を創出する。

## 【具体的な実践内容と計画（1年次）】

### （1）南稜就農塾

#### ア 地域農業の課題探究型学習による知識・技術の習得及び郷土愛の醸成

地域の基幹産業である農業の歴史や先人の創意工夫を知り、地域の基幹作物とその由来について理解を深める。また、生徒の意識アンケート結果をもとに、長期休業等を利用したインターンシップをカリキュラム化し、地域先進農家にて生産現場の視点から地域農業の課題や自己の目標を具体化する。さらに、地域農業の課題を見つめ、その改善に向けたプロジェクト活動を推進し、2年目の活動へつなげる。

[実施教科：南稜就農塾の活動の中で実施する]

#### イ 高度な資格取得及び上級学校への進学者輩出

自己のキャリアモデルを養う職業人育成プログラムの作成に着手し、モデルプランを作り上げる。上級学校進学希望者には、基礎学力向上のため学習支援を実施する。

[実施教科：南稜就農塾の活動の中で実施する]

#### ウ 南稜就農塾出身の卒業生へのアンケート

ア、イに反映させるために、南稜就農塾出身の卒業生にアンケートを実施し、在学時の学習効果や将来への貢献度を把握し、効果的な実践につなげる。

### （2）各学科での取組

#### ア 生産科学科

##### （ア）「永続性」を持った農業教育実践と人材育成～ケースメソッドと知的財産教育を柱とした教育実践～

農業は食料生産及び多面的機能を持ち、地域を支える重要な構成要素であることを生徒に理解させる。そのうえで、衣食住を支える素材の生産分野についての学習へ移行し、水稻栽培及び畜産経営に必要な知識・技術教育を特化していく。

[実施教科「科目」：農業「農業経営」・農業「総合実習」]

##### （イ）地域の特色と資源を活かしたモノづくり

農業分野での商品開発とその販売戦略を学ぶ。6次産業及び商品開発に関する農業の事例をもとに、知的財産と基礎的なマーケティングの視点で考えることができる人材育成を目指す。

[実施教科「科目」：農業「農業経営」・農業「総合実習」]

#### イ 園芸科学科

##### （ア）生産環境の維持・管理のために必要な知識と実践的技術の習得

農業全般の基礎的・基本的な知識と栽培技術について、農業実習を通して体験的に習得する。本校野菜専攻で学習に取り扱う品目すべてにおいて、環境面に配慮しているか、農場管理が適切に取り組まれているか、検証を踏まえながら栽培を行い、生産体系の見直しを同時に行う（農場全体をGAP管理の基準に合わせて検証）。

[実施教科「科目」：農業「農業経営」・農業「農業と環境」・農業「総合実習」]

##### （イ）6次産業化人材の育成とモデルケースの構築

知的財産教育を含めた6次産業化に関する基礎的な知識を習得する。また、加工用原材料として、野菜や果樹に関する生産環境を確認し、安全で安心な食料生産の栽培方法と高付加価値で利用価値の高い食材の生産につなげる。

[実施教科「科目」：農業「農業経営」・農業「農業と環境」]

#### (ウ) 地域への農作物及び技術の新規導入と普及を目指した研究実践

GAP認証の基準に則り、試験施設及び圃場の整備と設備を導入し、共同研究の諸条件設定を行う。また、地域農家及び農業法人等への共同研究の企画と募集、依頼を行う。

[実施教科「科目」：農業「総合実習」・農業「農業と環境」]

### ウ 食品科学科

#### (ア) 地域の食品開発センターとしての確立～共同研究による商品開発及び分析の拠点～

農畜産物の加工・貯蔵・品質管理・食品衛生・分析などに関する基礎的・基本的な知識と技術を実験・実習をとおして体験的に習得する。また、県内・地域の食品製造関連企業や球磨焼酎蔵元の視察研修を実施し、食品製造関連産業について学習する。

[実施教科「科目」：農業「総合実習」・農業「食品製造」・農業「食品化学」]

#### (イ) 食の6次産業化を担う人材の育成

6次産業化の基礎知識を学習する。農畜産物の加工・貯蔵・品質管理・食品衛生・分析などに関する基礎的・基本的な知識と技術を実験・実習をとおして体験的に習得する。

[実施教科「科目」：農業「農業と環境」・農業「総合実習」・農業「食品製造」]

### エ 環境工学科

#### (ア) 地域林業の実践リーダー及び経営管理能力者の育成

林業関係の仕事内容を理解する。人吉・球磨地域での林業従事者として、伐採・搬出・製材・加工などの仕事内容に対応し、即戦力としての育成を目指した知識と技術を学ぶ。

[実施教科「科目」：農業「森林科学」・農業「農業と環境」・農業「総合実習」]

#### (イ) 農村環境の保全と開発に従事する技能者育成

建設・土木業の仕事内容を理解する。農業全般の基礎的・基本的な知識と専門技術について、農業実習及び実験を通して体験的に習得する。

[実施教科「科目」：農業「測量」・農業「農業と環境」・農業「総合実習」]

### オ 生活経営科

#### (ア) 地域の生活環境と農村生活・健康を支える人材の育成

農業全般の基礎的・基本的な知識と技術を、農業実習をとおして習得する。また、生活環境と農村生活の現状について学習をする。

[実施教科「科目」：農業「農業と環境」・農業「総合実習」・家庭「家庭総合」]

#### (イ) 農村・地域社会及び文化の伝承と継承ができる人材育成

地域の幼稚園や保育所や小学校、社会福祉施設、子ども会等で研究的活動、奉仕的活動、社交的活動の実践的活動への参加をとおして、コミュニケーション能力の育成を図る。

[実施教科「科目」：農業「農業と環境」・家庭「家庭総合」]

### カ その他

#### (ア) 農業の多面的機能を活かした自然体験活動及び生涯スポーツのコーディネーターの育成 <環境工学科・新校及び新学科設立に合わせた取組み>

自然体験活動及び生涯スポーツの方法と知識を習得する。地域に潜在的に潜んでいる様

々な資源（自然資源・歴史資源・人的資源など）を発掘・理解する。グリーンツーリズム研究会と連携し、活動体験から、グリーンツーリズムの理論と有用性を理解し、実践方法を学ぶ。

[実施教科「科目」：農業「総合実習」・農業「森林科学」]

※ 初年度は環境工学科の取組みとして実施

(イ) 園芸療法及び園芸福祉の技能習得と地域内への導入と普及

<生活経営科・新校及び新学科設立に合わせた取組み>

作物の栽培実習の中で、農作物の基礎的な栽培方法と知識を習得する。また、農作物や花・果樹・土・水・虫に触れて学ぶ体験をもとに、園芸福祉の観点から農業の役割と効果を理解する。

[実施教科「科目」：農業「総合実習」・農業「農業と環境」]

※ 初年度は生活経営科の取組みとして実施

(3) 南稜版学習到達度評価方法『LAEM for Nanryou ※』

※ LEARNING ACHIEVEMENT EVALUATION METHOD FOR NANRYOU HIGH SCHOOL の略

ア 定性評価

(ア) 内部評価

A 実践者としての意欲・意識・理解・態度の変容を捉える調査 ※ 別添資料参照

将来的な達成目標を考慮し、1年次～3年次まで共通した内容で到達度や達成状況を測る調査を実施する。評価平均2以上を目指す。

B 研究及び研修内容に関する調査

研究や研修の実践前後で変容や学習成果の習熟度を捉えるアンケート調査を実施する。評価平均2以上を目指す。

(イ) 外部評価

研究の推進及び運営指導に携わる各分野の有識者によるアンケート調査を実施する。評価平均2以上を目指す。

(ウ) 研究の成果として生徒の変容が捉えられる実技評価

生徒の知識、技能、意欲等の伸長や変容を映像として記録し、生徒の力量の把握と、SPHの取組の効果を視覚的に測定する。

A 年次毎の目標達成に関する課題を設定し、実技を評価・記録

B 最終目標に合わせた課題を設定し、年次毎に実技を評価・記録

C 発展性や創造性、オリジナリティーを図れるような課題を設定し、実技で評価・記録

研究対象	研究内容	定性目標	効果測定
南 稜 就 農 塾	(ア) 地域農業の課題探究型学習による知識・技術の習得及び郷土愛の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業専門分野の理解及び興味・関心向上</li> <li>・地域内農業関係進路意欲の向上</li> <li>・農家宿泊研修及び企業研修実践</li> </ul>	内部及び外部評価
	(イ) 高度な資格取得及び上級学校への進学者輩出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアモデルプランに沿った将来設計書作成</li> <li>・農業関連の進学意欲向上</li> <li>・高度な資格取得への意欲向上</li> </ul>	内部及び外部評価
生 産 科 学 科	(ア)「永続性」を持った農業教育実践と人材育成～ケースメソッドと知的財産教育を柱とした教育実践～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域農業の理解向上</li> <li>・アイデアの具体化と表現力の向上</li> <li>・知的財産の理解向上</li> </ul>	内部及び外部評価 実技評価
	(イ)地域の特色と資源を活かしたモノづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6次産業化の理解</li> <li>・マーケティングの理解向上</li> </ul>	内部及び外部評価 実技評価
園 芸 科 学 科	(ア)生産環境の維持・管理のために必要な知識と実践的技術の習得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GAP 認証基準の理解</li> <li>・既存の栽培体系の理解と改善意欲の向上</li> </ul>	内部及び外部評価 実技評価
	(イ) 6次産業化人材の育成とモデルケースの構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域農業の理解向上</li> <li>・原材料(農作物)の理解</li> <li>・6次産業化の理解</li> </ul>	内部及び外部評価 実技評価
	(ウ)地域への農作物及び技術の新規導入と普及を目指した研究実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域農業の理解向上</li> <li>・農業生産技術及び栽培管理の理解</li> </ul>	内部及び外部評価 実技評価
食 品 科 学 科	(ア)地域の食品開発センターとしての確立～共同研究による商品開発及び分析の拠点～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場見学及び研修実施</li> <li>・地域特産物及び特産品の理解</li> <li>・地域農業の理解向上</li> </ul>	内部及び外部評価 実技評価
	(イ)食の6次産業化を担う人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域特産物及び特産品の理解</li> <li>・地域農業の理解向上</li> <li>・6次産業化の理解</li> </ul>	内部及び外部評価 実技評価
環 境 工 学 科	(ア)地域林業の実践リーダー及び経営管理能力者の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域農林業の理解向上</li> <li>・環境保全意識の向上</li> <li>・地域環境及び資源の理解向上</li> </ul>	内部及び外部評価 実技評価
	(イ)農村環境の保全と開発に従事する技能者育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域環境の理解</li> <li>・環境保全意識の向上</li> </ul>	内部及び外部評価 実技評価
生 活 経 営 科	(ア)地域の生活環境と農村生活・健康を支える人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域農業の理解向上</li> <li>・地域の衣・食・住の理解向上</li> </ul>	内部及び外部評価 実技評価
	(イ)農村・地域社会と文化の伝承と継承ができる人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統・文化の理解向上</li> <li>・地域交流や伝統行事の理解向上</li> <li>・継承意欲の向上</li> </ul>	内部及び外部評価 実技評価
そ の 他	(ア)農業の多面的機能を活かした自然体験活動及び生涯スポーツのコーディネーター育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の自然体験活動の理解</li> <li>・地域環境及び資源の理解向上</li> </ul>	内部及び外部評価 実技評価
	(イ)園芸療法及び園芸福祉の技能習得と地域内への導入と普及	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園芸福祉及び園芸療法の理解</li> <li>・地域の福祉施設の理解</li> </ul>	内部及び外部評価 実技評価

## イ 定量評価

### (ア) 「南稜版SPH到達度テスト」問題開発

「南稜版SPH到達度テスト」問題を開発し、研究活動に関する理解度や学習の定着度、知識を測るペーパーテストを実施する。

### (イ) 研究内容に関する課題を提示し、技能を図る実技試験の実施

- A 年次毎の目標達成に関する課題を設定し、実技で評価
- B 最終目標に合わせた課題を設定し、年次毎に実技で評価
- C 発展性や創造性、オリジナリティーを図れるような課題を設定し、実技で評価

### (ウ) 研究内容に関する資格取得の状況（チャレンジ数・合格数及び合格率）評価

### (エ) 研究内容に関する課題レポートを実施

研究対象	研究内容	定量目標	効果測定
南稜就農塾	(ア)地域農業の課題探究型学習による知識・技術の習得及び郷土愛の醸成	・進路目標に合わせたキャリアプラン作成 ・プロジェクト学習成果報告 ・農家・企業等体験研修(2件以上)	課題レポート 報告会成績 報告書評価
	(イ) 高度な資格取得及び上級学校への進学者輩出	・関連資格・検定2受験、合格率50%以上 ・進学模試で評価C評価以上	資格受験数と取得率 模試判定
生産科学科	(ア)「永続性」を持った農業教育実践と人材育成～ケースメソッドと知的財産教育を柱とした教育実践～	・年次課題実技テスト(実践評価50点以上) ・最終課題実技テスト(実践評価20点以上) ・農業技術検定3級校内模試平均40点以上	ペーパーテスト 実技テスト
	(イ)地域の特色と資源を活かしたモノづくり	・校内アイデアコンテストへの出品(1出品以上) ・課題レポート及び報告会評価	コンテスト評価 課題報告評価
園芸科学科	(ア)生産環境の維持・管理のために必要な知識と実践的技術の習得	・年次課題実技テスト(実践評価50点以上) ・最終課題実技テスト(実践評価20点以上) ・農業関連科目の評点平均50点以上 ・GAP 課題レポート(評価平均50点以上)	実技テスト ペーパーテスト 課題レポート
	(イ)6次産業化人材の育成とモデルケースの構築	・年次課題実技テスト(実践評価50点以上) ・最終課題実技テスト(実践評価20点以上) ・商品化原料評価(評価平均50点以上) ・課題レポート(評価平均50点以上)	実技テスト ペーパーテスト 課題レポート 農産物評価
	(ウ)地域への農作物及び技術の新規導入と普及を目指した研究実践	・共同研究の企画(全体で2件以上立案) ・栽培試験成果報告(全体で3件以上報告)	企画レポート 成果報告書
食品科学科	(ア)地域の食品開発センターとしての確立～共同研究による商品開発及び分析の拠点～	・年次課題実技テスト(実践評価50点以上) ・最終課題実技テスト(実践評価20点以上) ・関連資格・検定合格率(50%以上) ・商品開発及び協力数(2商品) ・共同研究による商品開発課題レポート(評価平均50点以上)	実技テスト 資格・検定合格率 課題レポート 商品開発・協力数

	(イ)食の6次産業化を担う人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年次課題実技テスト(実践評価50点以上)</li> <li>・最終課題実技テスト(実践評価20点以上)</li> <li>・関連資格・検定合格率(50%以上)</li> <li>・関連科目の評点平均50点以上</li> </ul>	<p>実技テスト 資格・検定合格率 ペーパーテスト</p>
環境 工 学 科	(ア)地域林業の実践リーダー及び経営管理能力者の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年次課題実技テスト(実践評価50点以上)</li> <li>・最終課題実技テスト(実践評価20点以上)</li> <li>・関連科目の評点平均50点以上</li> </ul>	<p>実技テスト ペーパーテスト</p>
	(イ)農村環境の保全と開発に従事する技能者育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年次課題実技テスト(実践評価50点以上)</li> <li>・最終課題実技テスト(実践評価20点以上)</li> <li>・関連科目の評点平均50点以上</li> </ul>	<p>実技テスト ペーパーテスト</p>
生 活 経 営 科	(ア)地域の生活環境と農村生活・健康を支える人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域理解と創造的活動実践(年1回以上)</li> <li>・関連資格・検定合格率(50%以上)</li> <li>・年次課題実技テスト(実践評価50点以上)</li> <li>・最終課題実技テスト(実践評価20点以上)</li> <li>・関連科目の評点平均50点以上</li> </ul>	<p>実技テスト 資格・検定合格率 課題レポート ペーパーテスト</p>
	(イ)農村・地域社会と文化の伝承と継承ができる人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統・文化の理解と継承活動(年1回以上)</li> <li>・年次課題実技テスト(実践評価50点以上)</li> <li>・最終課題実技テスト(実践評価20点以上)</li> <li>・関連科目の評点平均50点以上</li> </ul>	<p>実技テスト 課題レポート ペーパーテスト</p>
そ の 他	(ア)農業の多面的機能を活かした自然体験活動及び生涯スポーツのコーディネーターの育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然体験活動及び生涯スポーツの理解と実践(年1回以上)</li> <li>・実践課題レポート(評価平均50点以上)</li> </ul>	<p>課題レポート</p>
	(イ)園芸療法及び園芸福祉の技能習得と地域内への導入と普及	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題レポート(評価平均50点以上)</li> <li>・関連科目の評点平均50点以上</li> </ul>	<p>課題レポート ペーパーテスト</p>

## 5. 実施体制

### (1) 研究担当者

氏名	職名	役割分担・担当教科
佐藤 浩臣	教諭	農場長・総務企画・教科「農業」(園芸)
柿本 剛	教諭	研究主任・企画運営・教科「農業」(園芸)
吉永 憲生	教諭	生産科学科主任・企画・効果測定・教科「農業」(畜産)
野手由紀子	教諭	食品科学科主任・効果測定・教科「農業」(食品)
白石 栄二	教諭	環境工学科主任・効果測定・教科「農業」(農業土木)
西口 紀子	教諭	生活経営科主任・効果測定・教科「家庭」(家庭)
池田 秀作	教諭	普通科総合コース主任・効果測定・教科「外国語」(英語)
廣嶋 秀一	教諭	教務主任・教科「地歴」(地歴)
多田 太郎	教諭	検証・記録・教科「農業」(農業)
栗原 健	教諭	効果測定・検証・記録・教科「農業」(園芸)
中村 弘美	教諭	食品科学科・検証・記録・教科「農業」(食品)
早瀬 寿樹	教諭	検証・記録・教科「農業」(林業)
城戸真由子	教諭	検証・記録・教科「家庭」(家庭、福祉)
清永 彰	教諭	検証・記録・教科「保健体育」(保健体育)
門田 奈子	教諭	園芸科学科・会計・教科「農業」(園芸)

### (2) 研究推進委員会

氏名	所属・職名	役割分担・専門分野等
横山 耕二	オフィスチェイカス代表 中小企業診断士・共有塾メンター	推進指導委員
深水 吉人	熊本県指導農業士連絡協議会会長	推進指導委員
浅田 芳彦	球磨地域振興局農業普及・振興課長	推進指導委員
甲斐 真也	あさぎり町役場 農業振興課長	推進指導委員
福田 勝徳	球磨地域農業協同組合長	推進指導委員
草野 貴光	熊本県教育庁教育指導局高校教育課 指導主事	推進指導委員
永井 一將	熊本県立教育センター 特別支援教育研修室長兼教育相談室長	推進指導委員
紫藤 光一	熊本県立南稜高等学校 校長	推進委員
太江田恭男	熊本県立南稜高等学校 教頭	推進委員
松本 博文	熊本県立南稜高等学校 主任事務長	推進委員
柳田 壽昭	熊本県立南稜高等学校 指導主事(開設準備室)	推進委員
佐藤 浩臣	熊本県立南稜高等学校 教諭(農場長)	研究担当者
柿本 剛	熊本県立南稜高等学校 教諭(研究主任)	研究担当者
吉永 憲生	熊本県立南稜高等学校 教諭(南稜就農塾)	研究担当者

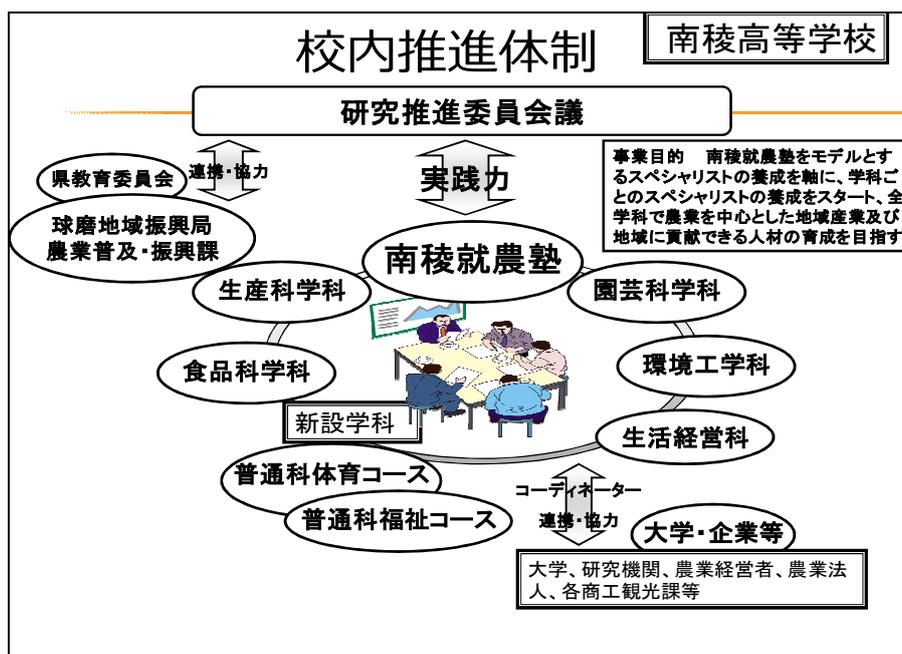
※ 委員会の活動を月1回、年10回程度実施

(3) 運営指導委員会

氏名	所属・職名	役割分担・専門分野等
木之内 均	株式会社木之内農園 取締役会長	農業関係
高崎 文子	国立大学法人熊本大学教育学部 准教授	学識経験者
木下 統	国立大学法人宮崎大学農学部植物生産環境科学科 准教授	学識経験者
西 和人	市房観光株式会社取締役	地域活用関係
大津 愛梨	NPO法人田舎のヒロインズ会長 (O2Farm)	再生可能エネルギー開発・農村文化の創出
長尾 成敏	有限会社長尾農産 代表取締役社長	農業関係
鳥井 修	農林水産部生産経営局 農地・担い手支援課長	農政関係
牛田 卓也	熊本県教育庁教育指導局 高校教育課長	学校教育

※ 委員会の活動を6月と12月、年2回実施

(4) 校内における体制図



6. 研究内容別実施時期

【初年度の活動計画】

実施時期	活動内容	研究内容 ※
4月	職業人育成プログラムとキャリアモデルプランの作成 (南稜就農塾)	2
	GAP認証に合わせた生産環境の見直しと検証 (園芸科学科)	5
	共同研究内容の検討 (園芸科学科)	7
5月	地域理解の講演会① (南稜就農塾)	1
	GAP認証に合わせた生産環境の改善と整備① (園芸科学科)	5

	南稜産野菜ジュース用原材料の生産と検討①（園芸科学科） 環境教育学習（環境工学科） 地域文化交流研修会（生活経営科） 研究推進委員会①	6 11 12
6月	南稜就農塾説明会（南稜就農塾） 地域就農教育検討会議①（南稜就農塾） 地域農家との連絡協議会①（南稜就農塾） GAP認証に合わせた生産環境の改善と整備②（園芸科学科） 「先達に学ぶ」講演会（各科） 野菜栽培技術研修（野菜担当職員） 研究推進委員会② 運営指導委員会① 連絡協議会	2 1 1 5 7
7月	インターンシップ及び職場体験研修（全学科）・（南稜就農塾） 地域農家との連絡協議会②（南稜就農塾） 地域理解の講演会②（南稜就農塾） 食品加工技術研修会①（食品科学科） グリーンツーリズム体験活動①（環境工学科） 研究推進委員会③	1・4・7・9・11・12 1 1 8 10・14
8月	地域農家との連絡協議会③（南稜就農塾） 宿泊型農家研修（南稜就農塾） 家畜人工授精師職員研修（南稜就農塾） 市場理解のための職員研修（南稜就農塾） 介護・福祉理解研修会（生活経営科）	1 1 2 2 12・15
9月	地域課題解決に向けたプロジェクト活動（南稜就農塾） 南稜産野菜ジュース用原材料の生産と検討②（園芸科学科） グリーンツーリズム体験活動②（環境工学科） 研究推進委員会④	1 6 10・14
10月	地域理解の講演会③（南稜就農塾） マーケティング研修（食品科学科） 林業ガイダンス（環境工学科） 研究推進委員会⑤	1 4 10
11月	南稜米販売戦略研修（生産科学科） 製菓・製パン技術研修（食品科学科） 食品加工技術研修会②（食品科学科） 「食と命の授業」育成鶏の解体・調理実習（生活経営科） グリーンツーリズム体験活動③（環境工学科） 産業教育フェア視察・SPH事業報告会（運営担当者） 研究推進委員会⑥	3 7・8 8 13 10・14

1 2 月	管外先進農家研修③（南稜就農塾） 球磨地方4Hクラブとの活動発表交流会（南稜就農塾） GAP審査・認証視察研修（園芸科学科） 球磨焼酎蔵元の工場見学（食品科学科） 商品開発に関する東京農業大学視察研修（食品科学科） 農業土木ガイダンス（環境工学科） 建設業ガイダンス（環境工学科） 体育コース研修（体育科） 研究推進委員会⑦ 運営指導委員会②	2 1 5 8 7・8 11 11 14
1 月	共同研究の企画検討会議（園芸科学科） 教職員の先進地視察研修（各科指導担当者） 研究推進委員会⑧	7 2・4・7・8・10・13
2 月	地域就農教育検討会議②（南稜就農塾） 管内熊本県農業コンクール受賞者及び農家の視察（南稜就農塾） 就農者・林業従事者激励会の実施（南稜就農塾） 県立農業大学校主催の「緑の学園」への参加（希望者） 『進学プロジェクト』参加（国公立進学希望者） アグリビジネスセンター視察研修（園芸科学科） 南稜産野菜ジュースの試作（園芸科学科） 花卉栽培技術研修（草花担当職員） 商品開発に関する鹿児島大学視察研修（食品科学科） グリーンツーリズム体験活動④（環境工学科） 研究推進委員会⑨	1 2 10・11 2 2 6 6 7 8 10・14
3 月	インターンシップ及び先進農家研修②（南稜就農塾） 先進地視察研修（食品科学科） 校内プロジェクト発表会での成果報告（全学科） 研究推進委員会⑩ 文部科学省へ事業完了報告緒等を提出	1 9 1・6・9・11・13
通年※4	①農業全般の基礎・基本的な知識の学習と技術の習得（全学科） ②関連資格の取得に向けた学習及び資格試験（全学科） ③上級学校進学に向けた受験対策及び進路指導（南稜就農塾） ④知的財産検定3級取得に向けた学習活動（生産科学科） ⑤6次産業化と知的財産に関する基礎学習 （南稜就農塾・生産科学科・園芸科学科・食品科学科、生活経営科） ⑥環境に配慮した持続可能な農業の実践 （生産科学科・園芸科学科・生活経営科） ⑦農畜産物の加工・貯蔵・品質管理・食品衛生・分析などに関する基礎的・基本的な知識の学習と技術の習得	2 2 2 2 2・3・6・9・13 1・5・12 4・6・9

(生産科学科・食品科学科・園芸科学科・南稜就農塾)	
⑧学校演習林の保育(環境工学科)	10

※ 初年度の活動計画に記載された「研究内容」の番号は、対象別研究内容(下表)の「研究項目番号」の数字に対応する

※ 実施時期は、事業計画書提出時のものであり、実際の事業着手は契約締結後とする。

**【対象別研究内容】**

研究項目番号	研究内容	対象
1	地域農業の課題探究型学習による知識・技術の習得及び郷土愛の醸成	南稜就農塾
2	高度な資格取得及び上級学校への進学者輩出	南稜就農塾
3	「永続性」を持った農業教育実践と人材育成 ～ケースメソッドと知的財産教育を柱とした教育実践～	生産科学科
4	地域の特色と資源を活かしたモノづくり	生産科学科
5	生産環境の維持・管理のために必要な知識と実践的技術の習得	園芸科学科
6	6次産業化人材の育成とモデルケースの構築	園芸科学科
7	地域への農作物及び技術の新規導入と普及を目指した研究実践	園芸科学科
8	地域の食品開発センターとしての確立 ～共同研究による商品開発及び分析の拠点～	食品科学科
9	食の6次産業化を担う人材の育成	食品科学科
10	地域林業の実践リーダー及び経営管理能力者の育成	環境工学科
11	農村環境の保全と開発に従事する技能者育成	環境工学科
12	地域の生活環境と農村生活・健康を支える人材の育成	生活経営科
13	農村・地域社会及び文化の伝承と継承ができる人材育成	生活経営科
14	農業の多面的機能を活かした自然体験活動及び生涯スポーツのコーディネーターの育成	環境工学科 (新校・新学科対応)
15	園芸療法及び園芸福祉の技能習得と地域内への導入と普及	生活経営科 (新校・新学科対応)

**7. この事業に関連して補助金等を受けた実績**

補助金等の名称	交付者	交付額	交付年度	業務項目
実績なし	余白	余白	余白	余白

**8. 知的財産権の帰属**

( ) 1. 知的財産権は受託者に帰属することを希望する。

(  ) 2. 知的財産権は全て文部科学省に譲渡する。

**9. 再委託に関する事項**

再委託業務の有無 有・無

II 委託事業経費  
別紙1に記載

III 事業連絡窓口等  
別紙2に記載